

「ミュージアム（拠点施設）」に必要と考えられる諸室及び想定面積について

【資料3】

・【資料2】で案として示した具体的な事業内容（案）に紐づく形で、「ミュージアム（拠点施設）」に必要と考えられる諸室及び想定面積（延床面積）について、現時点での案として次のとおり整理した。

◆ 「ミュージアム（拠点施設）」の想定施設規模

具体的な事業内容（案）	諸室イメージ	想定面積	想定面積等の考え方
収集方針に基づく資料・作品の収集及び保管 ----- 近現代資料に重点を置いた寄贈調整 ----- 収蔵庫展示 ----- 収蔵庫展示での市民ガイド	収蔵・保管スペース 【想定される諸室】 搬入ヤード、荷解き室、一時保管庫、燻蒸室、 収蔵庫、公開型収蔵庫など	2,900㎡ ～ 3,400㎡ (旧施設：約2,760㎡)	<ul style="list-style-type: none"> 市民ミュージアム収蔵品を引き継ぐものとし、被災収蔵品レスキュー状況や今後の資料収集等を踏まえ、収蔵庫を約2,000㎡～約2,500㎡程度、公開型収蔵庫を約600㎡程度と想定（市民ミュージアム旧施設の収蔵庫は約2,200㎡）。 ※ 収蔵庫の収蔵量は、収蔵品の大きさ、形状、配置方法、収蔵庫の高さ等によって変動するため、設計を見据えて与件整理を進めていく。
デジタル・アーカイブ化、デジタル・アーカイブの運用 ----- 収蔵品を活用した調査研究 ----- 他館等と連携した調査研究	調査研究・デジタル化スペース 【想定される諸室】 資料整理室、研究室、デジタル・スタジオなど	400㎡ ～ 500㎡ (旧施設：約680㎡)	<ul style="list-style-type: none"> 効果的・効率的な調査研究ができるスペースや、収蔵品のデジタル化などに対応できるスタジオを各諸室約50㎡～約200㎡程度として想定。
被災収蔵品の修復作業 ----- 応急処置や修復に関するボランティアの育成 ----- 修復状況の定期的な発信	修復スペース 【想定される諸室】 保存修復室、修復公開スペースなど	200㎡ ～ 300㎡ (旧施設：約50㎡)	<ul style="list-style-type: none"> 被災収蔵品レスキュー状況を踏まえ、紙資料の応急処置などが可能な保存修復室や、修復工程やその結果を公開するスペースなどを各諸室約50㎡～約100㎡程度で想定。
市民とつくる展示等 ----- ラーニング・プログラム ----- 川崎市ミュージアム処方箋 ----- 常設展示、大規模企画展、巡回展 ----- みんなで考える川崎展示・地域課題事業	展示スペース 【想定される諸室】 常設展示室、企画展示室、展示準備室など	1,800㎡ ～ 2,200㎡ (旧施設：約3,740㎡)	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示室は、市の通史など博物館系の内容を取り扱う想定。展示の固定化はせず、定期的な入替ができるような構成とする。企画展示室は、巡回展に対応できる規模のものと、常設展示と連動したテーマ展示や実験的な展示がフレキシブルに実施できるようなものなど複数を整備し、用途に応じて連結使用ができるような整備を想定。学芸員ヒアリングや他都市博物館、美術館事例を参考とし、常設展示室は約400～約500㎡程度、企画展示室は合計約1,300㎡～約1,600㎡程度を想定。
被災前に実施していた各種プログラム ----- 市民・専門学生向け修復WS ----- ミュージアム活動を通じた地域とのネットワークの構築 ----- 「ことラー」との連携プログラム	活動スペース 【想定される諸室】 多目的・イベントスペース、「ことラー」活動室、創作スペースなど	600㎡ ～ 700㎡ (旧施設：約3,470㎡) ※映像ホール、ミニホール等を含む	<ul style="list-style-type: none"> 多様な市民活動に対応できる多目的スペースや、セミナー・シンポジウム等の開催が可能なイベントスペース、「ことラー」等の活動スペース、気軽にものづくりができる場などを想定。多目的スペースは約100㎡程度のものを複数整備し、様々な用途での利用ができるよう連結も可能とする。イベントスペースは一定程度の集客や映像上映等を想定し、約250㎡程度を想定。
その他バックヤードスペース 【想定される諸室】会議室、倉庫、事務室、守衛室、機械室など		1,800㎡ ～ 1,900㎡ (旧施設：約5,340㎡)	<ul style="list-style-type: none"> ミュージアムの運営上、必須となる諸室について、学芸員ヒアリングや他都市博物館、美術館事例等を参考とし、想定面積を設定。
ユニバーサル設備スペース 【想定される諸室】情報コーナー、授乳室、カフェ・レストラン、ショップ、センサリールームなど		1,800㎡ ～ 2,500㎡ (旧施設：約3,500㎡)	<ul style="list-style-type: none"> 来館者が快適に過ごせるような空間づくりのために必要と考えられる諸室について、学芸員ヒアリングや他都市博物館、美術館事例等を参考とし、想定面積を設定。なお、アンケート等でニーズが高かったカフェ・レストランについては、関連計画の動向も踏まえながら、具体の整備内容を検討していく。
合 計		9,500㎡ ～ 11,500㎡	※ これまでの検討に基づく事業内容案を踏まえて必要と想定される面積であるため、今後の検討や社会状況の変化等により、変動する可能性がある。